

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	音楽B		
英文授業科目名	Music B		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	長岡 英		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shimauch@bunka.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>西洋音楽史--ロマン派の音楽--</p> <p>西洋音楽は私たち日本人の生活の中に溶け込んでいて、テレビ・コマーシャルなどにさまざまなクラシックが使われている。音楽Bではロマン派音楽を取り上げ、クラシック音楽の基本レパートリーとその歴史に関する理解を深める。</p> <p>音楽の本来の姿は「鳴り響き」である。したがって試験では、授業で取り上げた曲のいくつかを聞いて、作曲家名、題名などを同定したうえでその曲に関して論述する、リスニング問題も出題する。西洋クラシック音楽に関する、大学生としての教養・常識を身につけることが目標である。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>原則として、音楽Aを履修した者が音楽Bを履修できる。 これは、音楽Bでは音楽Aに続く内容を取り扱うが、音楽Aの内容を繰り返さないためである。音楽Bのみの履修を希望する者は、ロマン派に至る音楽や、それに関する理論などの知識を自分で補うこと。</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>世界史と音楽の基礎知識があることが望まれる。</p>

【教科書等】

教科書：久保田 慶一、ほか「はじめての音楽史」音楽之友社

【授業内容とその進め方】

代表的な作品を聴き、作品の背景や曲の構造を理解することにより、西洋音楽史におけるロマン派の音楽とその歴史的意義を考察する。

予定

- 第1回 ロマン派音楽概説
- 第2回 シューベルト
- 第3回 ベルリオーズ
- 第4回 メンデルスゾーン
- 第5回 ショパン
- 第6回 リスト
- 第7回 ヴェルディ
- 第8回 ブラームス
- 第9回 ワーグナー
- 第10～12回 国民楽派
- 第13回 チャイコフスキー
- 第14回 ブルックナー
- 第15回 マーラー
- 第16回 印象派
- 第17回 予備日

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2 / 3 以上出席して学期末試験を受けることが採点の対象となる条件。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けないので、講義開始前・終了後に申し出てください。

【学生へのメッセージ】

この講義の目的は音楽を聴くことではなく、聴き方を学ぶことである。音楽的能力（楽譜を読む能力や楽典などの知識）は問わないが、毎時間、受け身で音楽を聞き流すのではなく、曲自体も覚えようとする積極的な態度が必要である。

最低限の板書しかしないので、必要に応じてメモをとること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

--

【その他】